

昔の水路橋



だい ち
台地をうるおす

そとわ の ようすい
外輪野用水

今の水路橋



写真… 婦中町外輪野

外輪野用水

外輪野用水は、神通川水系の山田川の左側を流れています。山田村の中村、小島など約20㍍、婦中町の外輪野、下瀬など約320㍍の田んぼに水を取り入れています。水源は山田村の若土ダム直下であり、婦中町の長沢まで延長約12㍍の長い用水です。その水はため池やほかの用水にも入り、小杉町や富山市までも流れています。

用水の歴史

音川の丘陵地に広がる台地、外輪野地区はもとは無人の原野でした。その開発のきっかけになったのは、むかし上杉謙信が戦のために陣地を築いたことからだと伝えられてはいますが、



から水が不足で、米や野菜は殆ど作ることができなかつたのです。100年位たって柄谷川から水を引くようになり、初めて作物が作られるようになりました。元禄元年(1688年)、更に湯谷川からも水を引くようになりました。ところが他の村から移り住む人たちも多くなり、新しい田んぼや畑の開墾が始まると、もっと大量の水が必要になってきました。元禄6年(1693年)『何とかしてほしい』と願い出た杉原野(今の八尾町)村の江尻茂右衛門たちは富山藩から、もっと大がかりな用水の工事を始めるよう申しつけられました。そこでまず用水の取り入れ口を山田村の若土地内まで延ばすことにしました。険しいがけを削ったり、岩をくり貫きトンネルをつくったり、いろいろな困難とたたかいながら工事が進められました。測量や掘削には提灯やタイマツの光をたよりに進めたといわれています。たくさんの方の人たちの労力と莫大な費用がかかりました。

そして5年後の元禄11年(1698年)ついに用水全体に水を通すことができました。おかげで荒れた台地は美しい田んぼや畑に生まれかわったのです。



外輪野用水



水路橋



婦中町長沢

国道359号



文
音川小学校



婦中町外輪野



橋谷川

婦中町

県道富山・庄川線

山田村



ダム真下の用水取り入れ

湯谷川ダム

湯谷川

文
山田小学校

山田村役場

山田温泉



山田村若土

若土ダム

牛岳スキー場

地図の見方	
	外輪野用水
	水を使っている 田んぼや畑
	道路
	川

明治の初めまでは用水全体を富山藩が管理していたのですが、明治以降は村の人たちで管理することになりました。さらに昭和33年頃（農地改革後）からは「土地改良区」が管理しています。用水開通後300年もたつと水路の傷みも多くなってきましたので、今でも「安全に」水を流すための改修工事が進められているのです。



外輪野の神明社（鏡の宮）の由来
むかし用水が通ったあと蓮華寺村（婦中町蓮華寺）の九郎右衛門が寝ていると『吾は鎌倉鏡ヶ平（山田村鎌倉）に埋もれている鏡である。外輪野用水の守り神となろう』と夢の中に出てきました。さっそく掘りあて御神体として祀ったことが、鏡の宮（神明社）の始まりと伝えられています。



直す前



直した後

用水の役割

田んぼや畑の作物に必要な水を流すことが一番大切なことですが、降った雨を受け下流で大きな川へ流し、土砂などの崩れが起こるのも防いでいます。

また、防火・消雪用などのために、冬の間も流し、みんなの安全を守っています。

私たちの大切な水を流す用水です。

“ゴミなどを捨てないようにしましょう”

“水の流れが速いので気をつけましょう”

小学校

年 組 名 前